



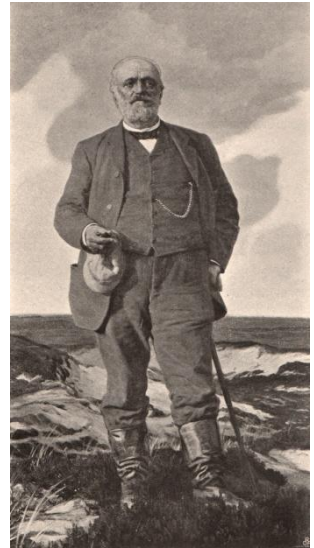
人物・デンマーク

【エンリコ・ミリウス・ダルガス】

デンマークの軍人、デンマーク・ヒース協会初代会長。デンマークに1782年に移住したフランス系の家系に生まれ、1853年北ユトランド・ビボーの軍道敷設隊の工兵中尉に任官、56年大尉に、80年中佐となる。ビボー在勤中にユトランドの土壌を熟知し、66年オーフスで友人らとともにヒース協会を設立し、ヒース地帯の開墾に力を注いだ。日本での知名度は高い。

1864年にドイツ・オーストラリア2国との戦いに敗れ、その代償としてシュレスヴィヒとホルスタインという作物の良くできる2州を失ってしまったデンマークにとって、いかにして国の勢いを取り戻すか・・・がデンマークを愛する人たちが心を砕いた最も大きなテーマでした。

その時に立ち上がった一人の軍人がいました。戦場から帰ったエンリコ・シリウス・ダルガスです。彼は工兵士官として、戦場に橋を架けたり道路を築いたりする中で、国土の地質や土地にあった作物について研究していました。その知識を活かして、ヒースに覆われたユラン半島を豊かな土地にしようと、植林を開始する大計画を立てたのです。



エンリコ・ミリウス・ダルガス  
(Enrico Mylius Dalgas)  
1828~1894

「荒地に適する木は何だろうか・・・」研究をかさねてたどりついた成長力が強いノルウェー産のモミの木を植えましたが、そのモミの木ですら芽を出しても育たない、それほどにユラン半島の土地は荒れていたのです。芽をだしても育たずに枯れてしまうモミの木に人々は失望し、ダルガスに文句を言いました。しかし、ダルガスはあきらめることなく試行錯誤を続け、努力と研究を重ねました。息子の助言により、大モミの木の間に小モミの木を植えることでモミの木は生長するようになり、また時期がきたら小モミの木を切ることで大モミの木は高く育ち、建築資材として活用できるまでになりました。

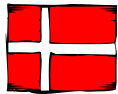
ダルガスの植林は成功したのです！

また、この成功はユラン半島の気候にも変化をもたらしました。木の茂っていない土地は熱しやすく冷めやすいので ユラン半島の夏は、昼は暑く、夜は時に霜が降るほど寒く、ゆえに、ジャガイモ・黒麦他わずかなものしか育たなかったのですが、高いモミの木が育つことで、夏の霜が全くなり北ヨーロッパ産の農産物で育たないものはなくなりました。さらにこの大きなモミの木が、海岸からの砂ぼこりを食い止めたので土地の荒廃を防ぐことが出来るようになりました。

霜、砂ぼこり、水の害がなくなったことで、荒れた土地は肥沃な田園地帯に生まれ変わりました。廃れた都市が再興し、新しい町村が生まれ、道路や鉄道が整い、牧場ができ乳製品や豚肉は輸出されるまでになり、デンマークは世界でも指折りの富んだ国になっていったのです。

しかしながら、ダルガスの一番の功績は、単に国を再生させたというだけでなく、ひたむきな研究と我慢強い実行によってデンマーク人の魂を生まれ変わらせ、敗戦のために意気衰えていた国民の心に希望を取り戻し、そして、今日のような豊かな国を取り戻すことが出来たことに違いありません。

M. Y



# オレロップ体操学校短期留学

Gymnastik Academy in Ollerup

日程 2014年9月7日～9月21日 研修期間 2014年9月8日～9月19日

費用 ￥425,000 -

授業料・他研修費・寮費(3食付)・航空運賃(エコノミークラス)  
燃料サーチャージ・各国出国税 込になります。

対象 17歳6カ月以上 英検3級 TOEIC450点以上レベルがあれば望ましい  
募集締め切り 2014年7月15日 頃

## 授業内容

- ・ デンマーク体操の基礎一通り(実習+講義 平易な英語)・基礎英語学習  
視察・遠足

※ご希望の方には小冊子をお送りいたします。

## デンマーク短期留学説明会を行います

6月10日(火) 17:30 開場 18時開始  
場 所: 株式会社エフエム青森本社内 会議室  
IPC短期留学説明会  
参加者オリエンテーションを行います。

6月10日(火)12時～  
場 所: 弘前大学 総合教育棟2階  
国際教育センター イングリッシュ・ラウンジにて  
IPC 短期留学・オレロップ体操学校 説明会を行います

6月5日ATV青森テレビ

### 「おしゃべりハウス」

番組内でデンマーク短期留学を  
とりあげてもらいました。  
放送終了後からお問い合わせを  
いただきました。  
ありがとうございました。



## よっしゃ来い!! CHOUROKU

2014年5月18日(日)富山県魚津市JR魚津駅前交差点周辺にて第2回「よっしゃ来い!! CHOUROKUまつり」開催されデンマークの食と暮らし研究会も参加しデンマーク産チーズやランチョンミートの頒布を行いました。当日は全国的に記録的な夏日にも関わらず2万人の来場があり沢山の方々がデンマークブースにお立ち寄り頂きデンマーク産チーズ・チュールリップ社のランチョンミートをお買い求め頂きました。なかでも、デンマーク産チーズのハバティは完売するほどの人気でした。  
お越し下さいました、沢山の方々がありがとうございました。

## デンマークに学ぶ～フレキシキュリティー～

わが国において雇用制度改革が論議される中で「フレキシキュリティー」という言葉が注目されています。これは柔軟性(flexibility)と保障(security)の合成語で、「柔軟な労働市場と高水準の生活保障が両立している雇用システム」と定義され、いわば労使のウィンウィンの関係を目指すというシステムであります。2006年の欧州理事会では、労働市場における雇用のあり方についての長期的な改革の指針「リスボン戦略」を改定した際、「フレキシキュリティー」を共通目標として採択し、デンマークはモデル国として脚光を浴びることになりました。企業外部・社会全体の労働市場全体を整えることを機軸に「フレキシキュリティー」を実現しているデンマークの実態について 6月2日付の日本経済新聞に、菅沼隆 立教大学教授によって詳しく紹介された記事が掲載されています。ここでは、労組によって管理されている失業保険、子供手当や住宅手当などの生活保障システムの充実、職業訓練など再就職にむけて設定された様々な支援など、企業の外部環境を機軸に「フレキシキュリティー」を実現してきたデンマークの雇用制度が解説されています。バランスの取れた労働とライフオリティについて、現在多くの課題を抱えている日本が、これからの雇用と労働のあり方を考えるヒントになるのではないのでしょうか？

### デンマークのフレキシキュリティーとその基盤

